

とちろローカルサミット G8セッション

テーマ：「持続可能な地域と経済」



(M) 浅野 大介

経済産業省商務流通グループ
流通政策課物流政策室 課長補佐

<略歴>

- ◆ 1974年日本橋生まれ。
- ◆ 東京大学大学院 法学政治学研究科修了後、経済産業省入省。
- ◆ 経済産業政策局にて企業秘密への産業スパイ行為の取締法制の立案、資源エネルギー庁にて石油対策予算の総括業務や本邦周辺ガス田開発に向けた海洋探査の推進、地域経済産業グループにてものづくり系中小企業・コミュニティ産業の振興、内閣府にて政府経済見通しの策定および経済対策のとりまとめに従事。
- ◆ 2008年6月より流通政策課にて、我が国における航空・港湾・貿易手続等の改革、日本の商材・コンテンツの国際展開に向けたアジア電子流通圏構想の推進、通商交渉等を担当。



(K) 谷口 正次

資源・環境ジャーナリスト(講演・執筆活動) 国際連合大学ゼロエミッション・フォーラム・産業界ネットワーク代表理事。

<略歴>

- ◆ 1938年東京都生まれ。1960年九州工業大学鉱山工学科卒業、同年、小野田セメント(株)入社。1987年資源事業部長に就任、各種鉱物資源関係事業を手がける。1993年常務取締役役に就任、環境事業を立ち上げる。1996年秩父小野田(株)専務取締役、1998年太平洋セメント(株)専務取締役(研究開発・資源事業担当・環境事業管掌)、2002年屋久島電工株式会社代表取締役社長に就任。

【最近の著書等】

- ◆ 『メタル・ウォーズ』(東洋経済新報2008年2月)他



木内 孝

NPOフューチャー500 理事長

<略歴>

- ◆ 「畏敬」と「矜持」(誇り)を喪ったこの国で生きるということ・・・を最近一冊の著書に纏めた儉約・健康・謙虚の「三ケン」で生きる男。
- ◆ 企業の代表、NPO法人の運営、企業体験から語る。



安藤 保彦

高知市副市長

<略歴>

- ◆ 昭和39年生まれ。神奈川県横浜市出身。
- ◆ 昭和63年4月通商産業省(現、経済産業省)入省。大臣官房秘書課係長、英国短期留学、新規産業室長補佐、立地環境整備課長補佐などを経て、平成19年7月から高知市産業振興担当理事として転出。平成20年4月から現職に就任。現在、高知から日本を元気にするために日々奮闘中。地元横浜では、少年サッカーチームの監督を務めていた



原田 博夫

専修大学経済学部教授

<略歴>

- ◆ 昭和23年茨城県生まれ。
- ◆ 慶應義塾大学経済学部卒業・大学院博士課程修了後、現職。
- ◆ 専門は地方財政論で、茨城県、東京都狛江市、川崎市などで各種の審議会委員などを歴任。米国のスタンフォード大学、ジョージメイソン大学、英国ロンドンのLSE、IEAなどで、客員研究員。

【最近の著作等】

- ◆ 原田博夫編『人と時代と経済学』専修大学出版局(2005年)など



穴倉 秀明

株式会社戸田家 業務副支配人

<略歴>

- ◆ 1960年 千葉県佐倉市出身。
- ◆ 1978年 戸田家に入社。館内設備全般の管理を行ない1992年から生ごみ処理等の環境問題等も担当し、1998年ISO14001推進委員会発足から事務局及び環境管理委員長を務め、現在環境管理責任者。
- ◆ 県内外・国外からの視察・研修等の対応をしている。



安藤 晴彦

経済産業省 産業技術環境局 リサイクル推進課長
電気通信大学客員教授

<略歴>

- ◆ 1985 東京大学法学部 第二類(公法)卒業
- ◆ 1985 通商産業省入省
- ◆ 2001 独立行政法人 経済産業研究所総括マネージャー
- ◆ 2001 内閣府企画官(経済財政-運営総括)
- ◆ 独立行政法人 経済産業研究所フェロー(兼務)
- ◆ 2003 資源エネルギー庁企画官(国際戦略・燃料電池担当)
- ◆ 2004 同庁 燃料電池推進室長(兼務)
- ◆ 電気通信大学客員教授(兼務・現職)
- ◆ 2005 同庁 新エネルギー対策課長(兼務)
- ◆ その他
- ◆ スペイン国イサベル女王勲章オフィシアル十字章受章



早川 隆治

帯広商工会議所青年部
三井住友海上火災保険(株)

<略歴>

- ◆ 43年5月 愛知県生まれ
- ◆ 慶應義塾大学商学部卒業
- ◆ 三井海上入社。奈良支店・名古屋・東京東支店等を経て、現在、帯広支社課長。

セッションの様子



テーマ：「持続可能な地域と経済」

セッションキーワード

- ◆ 経済社会におけるあらゆる「断絶」
 - ◆ 農山村社会と都市社会（川上と川下）
 - ◆ 資源産出国と先進国（南北問題も同じく川上川下）
 - ◆ 川下側消費社会側の「想像力」の欠如
- ◆ 企業や個人レベルの「社会的責任」意識の希薄さ
 - ◆ 全員参加型社会になっていない未成熟さ
 - ◆ 企業トップの社会的責任意識の欠如、市民レベルの意識の欠如
- ◆ 川下の消費者の「利便性」と「低価格指向」に引っ張られすぎている構造
 - ◆ 「コスト＋適正利潤」の値決めの呪縛（プライシングの方法の誤り）
- ◆ 都市型生活の尺度で全国各地の経済状況を計測するという誤り
 - ◆ 統計その他、都市型生活を基準とする尺度で農山村社会など地方経済を図ることによる「画一化」への道

テーマ：「持続可能な地域と経済」

市民による具体的アクションプログラム

- ◆ 「川下」に立つ我々先進国の消費者・企業が、「川上」たる国内の農山村社会や海外の発展途上国への理解と想像力を養い、持続可能な文明のありようを構想する。
- ◆ グローバル市場経済の中で、ローカルの価値を生かし見つけるため、プライシング(値付け)の哲学を変えていく。
 - ◆ 「売れるものを安く売る」ではなく「価値あるものを高く売る」
- ◆ 鉱工業出荷指数や商業統計など都市目線の画一的基準でローカル経済社会を計り、地方に無用のコンプレックスを抱かせる悪循環を避ける。
 - ◆ ローカル経済社会の豊かさを正当に評価し、他要請を育てる「ものさし」を作り出す。